



序

三位一体改革の余波や市町村合併の影響で、きぜわしい今日この頃となっています。周囲の環境変化には、実に大きなものがあります。文化財行政を取り巻く状況も、その例外ではありません。各地ではこの新しい環境に適応しようと、試行錯誤が繰り返されているようにみえます。このような時期にはことさら、原点にたちかえり足下を振り返ることが、たいへん大切なことではないかと思います。

戦後まもなく、当市の佐良山にある中宮1号墳や沼の弥生住居址群が発掘調査されました。敗戦により歴史観が大きくゆらいだ時期で、遺跡の調査から地域史を解明しようと、岡山大学に在職されていた近藤義郎先生に、津山市が調査を依頼したものです。当市の、文化財行政の黎明を告げる「事件」となりました。市民の幅広い支持を受けたそれらの調査の成果からは、戦後の考古学界をリードする多くの業績が生み出され、土地に刻み込まれた先人の足跡から、原始古代史の解明をめざそうという国民的な期待もふくらんでいきました。調査後に教材公園として整備された沼遺跡は、その象徴として、多くの人々に利用されてきました。

当時から半世紀がたって、昨今は、人々の意識や社会も当時とずいぶん変わりました。それにつれ、文化財のありかたにもさまざまな変化がおきています。ここは、一考を要する時期にさしかかっているように思います。

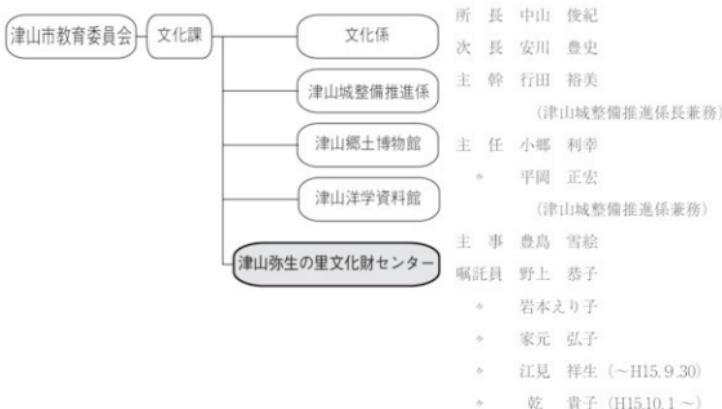
よき伝統を継承することはもちろんとしても、文化財保護行政が、今後どう転換していくべきか、大胆な議論の沸きあがることを期待します。

平成17年3月31日

津山弥生の里文化財センター

所長 中山俊紀

機構図及び職員配置



例　言

1. 本書は、津山市教育委員会・津山弥生の里文化財センターが平成 15 年度に実施した事業概要などについてまとめたものである。
1. 平成 15 年度の埋蔵文化財発掘調査は、中山俊紀、安川豊史、行田裕美、小郷利幸、平岡正宏、豊島雪絵、出土遺物の整理は上記の他、野上恵子、岩本えり子、家元弘子、民俗資料の整理は江見祥生が主として担当し、事業概要の執筆は各担当者が行い編集は平岡がおこなった。
1. 本書のデータは、PDF フォーマットで保管している。

目 次

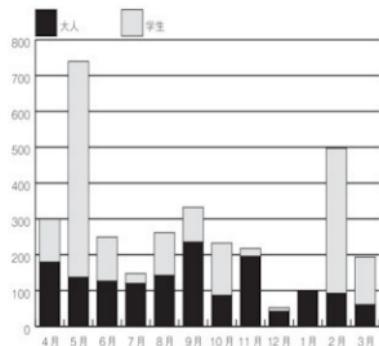
序	i	
機構図及び職員配置	ii	
例言	ii	
第 I 部		
津山弥生の里文化財センター事業概要	1	
I - A 展示事業	3	
I - A - 1 入館者数	3	
I - A - 2 啓発、普及活動	3	
I - A - 3 寄贈資料	3	
I - B 文化財センター日誌抄（平成 15 年度）	4	
I - C 埋蔵文化財発掘調査	6	
I - C - 1 平成 15 年度届出関係一覧	6	
I - C - 2 現地説明会	6	
I - D その他の事業	7	
I - D - 1 遺跡の保存・管理	7	
I - D - 2 津山やよいライオンズクラブ奉仕作業	7	
第 II 部	調査の概要	9
II - 1	天満神社 8 号墳・天神原遺跡発掘調査報告	11
第 III 部	資料紹介・研究ノート	33
III - 1	津山城今昔⑨－お城山の草刈－	35
III - 2	文化年間における津山城本丸御殿と表鉄御門の再建過程について	41

第1部 津山弥生の里文化財センター事業概要

A. 展示事業

1. 入館者数

昨年度の入館者数は下表のとおりである。



2. 啓発、普及活動

【刊行物】

『年報 津山弥生の里第11号』

『堀坂地区試掘調査報告書』

津山市埋蔵文化財発掘調査報告第74集



【講演会・研究会】

第22回津山市文化財報告会（参加者 120名）

日 時 平成16年3月20日（土）

場 所 グリーンヒルズ津山

リージョンセンター ベンタホール

内 容

第1部 調査報告

「紹真筆『津山景観図屏風』と鍬形葦葦」

津山郷土博物館 尾島 治

「日上戸山古墳群の発掘調査」

津山弥生の里文化財センター 小郷利幸

第2部 講演

「技術の発展からみる日本建築の特徴」

東京芸術大学客員教授 伊原惠司



美作考古学談話会（会員30名）

第1回 5月10日（土）「古代の道路」
(安川豊史)

第2回 7月12日（土）「弥生時代の開始年代」
(福島雪絵)

第3回 9月13日（土）「古墳の築造を考える」
(小郷利幸)

第4回 12月6日（土）「津山城出土の瓦とその系譜」
(平岡正宏)

第5回 1月17日（土）「研究史から学ぶこと」
(行田裕美)

第6回 3月13日（土）「弥生時代の建物」
(中山俊紀)

中学生考古学教室

第1回 10月25日（土）「縄文土器をつくる1」
(岡山縄文の会、安川豊史)

第2回 12月20日（土）「縄文土器をつくる2」
(岡山縄文の会、安川豊史)

第3回 3月6日（土）「土器から見た津山」
(安川豊史)

※第2回は積雪のため中止

【速報展】

平成14年度発掘調査速報展「津山の歴史を掘る」

【日上戸山58号墳】人物埴輪

【堀坂橋ノ元・耕整遺跡】須恵器、土師器

【美作国府跡】須恵器（刻印・墨書き）

【柳谷古墳】須恵器、土師器（県指定）

【収蔵資料等の貸し出し】

考古資料関係

- ◎新野小学校に火おこし機2点（4月）
- ◎津山郷土博物館特別展「渡来人」に西吉田北1号
埴須恵器など8点（10月～11月）
- ◎大澤祥子さんに火おこし機1点（12月）

民俗資料

- ◎鶴山小学校にこんろ、こたつなど10点（1月）

3. 寄贈資料

【民俗資料】

横山澄恵（市内林田） 竹行李 1点



【考古資料】

大前年春（市内横山） 須恵器片 1袋
大郷 淳（市内総社） 手培形土器 1点



B. 文化財センター日誌抄（平成 15 年度）

- 4月16日 煙硝藏跡枯木伐採
- 4月22日 堀坂地区は場整備に係る埋蔵文化財発掘調査について、岡山県津山地方振興局と事前協議
- 5月 7 日 都市計画道路経社川崎線建設に伴う試掘調査開始
- 5月10日 第1回美作考古学談話会開催
- 5月13日 美作国府跡出土平安時代瓦調査のため奈文研山崎信二氏来所
- 5月16日 平成15年度四教育事務所生涯学習課職員研修会講師に行田主幹出席
- 5月17日 姫路市城郭研究室市民セミナー講師に平岡主任出席
- 5月29日 全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会総会出席にため中山所長富山に出張
- 5月30日 サンタフェ訪問団津山城跡見学の説明
- 6月 2 日 林田地区の私道工事による遺跡の一部破壊を確認
- 6月 4 日 補助事業計画ヒアリングのため小郷主任はか県庁に出張
- 6月10・17日 旧津山藩別邸庭園（衆楽園）保存管理計画策定の協力依頼のため安川次長はか京都に出張
- 6月13日 文化行政担当者会議出席のため平岡主任が岡山市に出張
- 6月25日 富山大学考古学研究室黒崎直さんはか一行来所
- 6月27日 衆楽園はかの樹種鑑定打合せのため関西育種場鈴木さん来所
- 6月29日 日上歓山古墳群・日上天王山古墳草刈
- 7月 3 日 県史協総会・研修会出席のため行田主幹はか総社市に出張
- 7月 8 日 堀坂地区発掘調査開始
- 7月10日 天満神社8号墳発掘調査開始
- 7月12日 第2回美作考古学談話会開催
- 7月15日 関西育種場鈴木さんはか衆楽園樹種鑑定実施
- 7月16日 国分寺飯塚古墳草刈
- 7月26日 岡山県埋蔵文化財担当者協議会出席のため中山所長、平岡主任が灘崎町に出張
- 7月28日 沼弥生住居址群の草刈・剪定実施
- 7月30日 中宮古墳群・美和山古墳群草刈実施
- 7月31日 第1回津山市文化財保護委員会開催
- 8月 5 日 岡山県史跡整備上方連絡會議出席のため行田主幹、平岡主任が岡山県庁に出張
- 8月 6 日 津山やよいライオンズクラブが沼弥生住居址群早朝草刈奉仕作業を実施
正仙塚古墳草刈
- 8月25日 京都大学院生大賀さん玉製品調査のため来所
- 9月 1 日 美和山古墳群草刈
- 9月 2 日 第1回旧津山藩別邸庭園（衆楽園）保存管理計画策定委員会開催
- 9月 4 日 公立埋蔵文化財センター連絡協議会中国四国九州ブロック会議開催（9月5日まで）
- 9月 9 日 煙硝藏跡草刈
- 9月12日 弥生博物館友の会一行来所
- 9月13日 第3回美作考古学談話会開催
- 9月24日 豊島主事研修のため26日まで岡山市に出張
- 9月25日 文化庁玉田調査官が美作国分寺跡指定に伴う現地視察のため来津
- 9月30日 江見祥生非常勤嘱託員が本日をもって退職
- 10月 1 日 乾貴子非常勤嘱託員着任
- 10月 6 日 津山南道路に係る埋蔵文化財の取扱いについて都市計画課と協議
- 10月14日 日上歓山古墳群確認調査開始、国分寺飯塚古墳草刈
- 10月22日 刃戸古墳群草刈開始

- 10月25日 第1回中学生考古学教室開催
- 10月29日 県史協研修会に参加のため行田主幹、豊島主事が邑久町に出張
- 10月30日 煙硝蔵跡草刈
- 10月31日 中宮1号墳説明板応急修理
- 11月6日 史跡環境整備会議出席のため平岡主任が箱根に出張
- 11月14日 全国史跡整備市町村協議会臨時総会出席のため行田主幹、平岡主任東京に出張
- 11月26日 補助事業協議のため行田主幹、平岡主任が文化庁に出張
- 12月2日 総社・川崎線建設に伴う発掘調査開始
- 12月6日 第4回美作考古学談話会開催
- 12月20日 第2回中学生考古学談話会開催
- 12月26日 沼復元住居修理工事完了
- 1月10日 日上歟山古墳群確認調査の現地説明会開催
- 1月13日 衆楽園確認調査開始
- 1月17日 第5回美作考古学談話会開催
- 1月23日 岡山県埋文担当者研修会出席のため豊島主事が岡山市に出張
- 2月12日 第2回旧津山藩別邸庭園（衆楽園）保存管理計画策定委員会
- 2月23日 美作国分寺跡確認調査開始
- 2月27日 美作国分寺跡が史跡に指定される
- 3月1日 第2回津山市文化財保護委員会開催
- 3月3日 衆楽園確認調査終了
- 3月6日 第3回中学生考古学教室
- 3月8日 岡山市教育委員会乗岡さん資料収集のため来所
- 3月13日 第6回美作考古学談話会開催
- 3月15日 高野地区確認調査実施
- 3月16日 沼復元住居屋根補修作業開始
- 3月18日 岡山県埋蔵文化財担当者会議出席のため平岡主任が岡山市に出張
- 3月28日 日上歟山古墳群倒木等整理作業

C. 埋蔵文化財発掘調査

1. 平成15年度届出関係一覧

埋蔵文化財発掘の届出（法第57条の2）

遺跡名	所在地	工事種別	期間	発見者	津山市発表	発生日	指示事項	実施日	備考
美作国府跡	越杵 418 ~ 11 地	個人住宅	未定	越杵 418 ~ 11 内藤良子	津教委文第 3251 号	4/15	立会	5/22	遺物無し、遺物少量
美作国府跡	小原 10 ~ 3	個人住宅	未定	上河原 178 ~ 1 ~ 102 山崎 郁	津教委文第 5122 号	4/24	立会	4/24	遺物、遺物無し
美作国分寺跡	國分寺 287 ~ 1	個人住宅	15/24 ~ 9/28	國分寺 287 ~ 1 中島泰彦	津教委文第 7029 号	5/2	立会	7/2	遺物、遺物無し
美作国府跡	山北 32 ~ 18	地造成	未定	山北 39 藤川咲枝	津教委文第 0621 号	5/14	立会	未実施	
中望遺跡	柳方 217 ~ 4	地造成	未定	中望 65 ~ 1 (有) キヨハウエスター	津教委文第 14977 号	6/5	立会	8/5	遺構、遺物無し
美作国府跡	越杵 67	個人住宅	未定	越杵 67 棚橋 健	津教委文第 21826 号	8/8	立会	9/18	遺構、遺物無し
津山城跡	山下 46 ~ 6 地	個人住宅	未定	大字町 5~7丁目(ホームパンク・オーナー)	津教委文第 41327 号	9/24	立会	9/30	遺構、遺物無し
津山城跡	山下 9 ~ 16	個人住宅	未定	山下 9 ~ 16 河野義明	津教委文第 42930 号	9/30	立会	9/30	遺構、遺物無し
高野本郷西下高野山	高野山 84 ~ 2 地	地造成	12/10 ~ 13/1	高野本郷 1392 ~ 1 近藤 健	津教委文第 50210 号	10/30	立会	12/17	遺構、遺物無し
美作国府跡	越杵 440 ~ 1 地	個人住宅	未定	山北 206 ~ 2 山中秀樹	津教委文第 50526 号	10/21	立会	11/12	遺構、遺物無し
美作国分寺跡	國分寺 294	半廻設	11/15 ~ 12/31	國分寺 294 朝永康敏	津教委文第 51442 号	11/5	立会	未実施	次年度実施
波多磨寺跡	高野本郷 966 ~ 4 地	個人住宅	16/1 ~ 4/15	高野本郷 965 ~ 1 皆木善吾	津教委文第 66035 号	1/8	確認調査	3/15 ~ 3/16	測量、工事出土
美作国分寺跡	國分寺 307 ~ 5	個人住宅	4/15 ~ 8/31	國分寺 302 ~ 6 小林明生	津教委文第 82008 号	1/29	立会	16, 9/3	遺構、遺物無し

埋蔵文化財発掘調査の報告（法第58条の2）

遺跡名	所在地	遺跡種別	調査期間	面積 (m ²)、原因	津山市発表	発生日	調査担当	備考
福山古墳群	津人 1132	古墳	13/8.3 ~ 14/1.2	1200・軒車場造成	津教委文第 1445 号	4/4	安川典史 小幡利幸	平成 13 年度部分
福山古墳群	津人 1132	古墳	14/8.26 ~ 11/19	1100・轍車場整備	津教委文第 1506 号	4/7	安川典史 小幡利幸	平成 14 年度部分
大庭神社前・13号墳	河辺 347 ~ 6	古墳	15/7.10 ~ 8.31	300・軒車場造成	津教委文第 22125 号	7/23	小幡利幸	
福山古墳群	津人 1256 ~ 2	古墳	7/10 ~ 8/20	250・轍車場整備	津教委文第 30484 号	8/4	安川典史 小幡利幸	
日立鉄道山手遺跡	江上 424 ~ 5 地	古墳	0/14 ~ 1/31	360・道路整備	津教委文第 51964 号	1/16	小幡利幸 小幡利幸	
林川池の内遺跡	林川 802 ~ 3 地	古墳	1/28 ~ 8/31	1200・道路建設	津教委文第 61615 号	12/12	小幡利幸	

埋蔵文化財試掘・確認調査の報告

種類及び遺跡名	周知・未周知	所在地	調査期間	面積 (m ²)、原因	津山市発表	発生日	調査担当	備考
古墳・個人墓田遺跡	津人 1129 ~ 1 地	個人墓	15/1.21 ~ 1/29	300・軒車場造成・無	津教委文第 1152 号	4/4	小幡利幸	平成 14 年度部分
古墳・美作国分寺跡	周知	津人 26 ~ 1	15/1.15 ~ 1/16	15・保護面積設・有	津教委文第 1152 号	4/4	小幡利幸	平成 14 年度部分
散石地・野村津遺跡	周知	野村 424 ~ 1	14/9.13 ~ 9/13	50・軒車場造成・無	津教委文第 1152 号	4/4	小幡利幸	平成 14 年度部分
未周知	周知	津人 172 ~ 1 地	13/10.23 ~ 14/1.31	420・轍車場整備・有	津教委文第 1152 号	4/4	安川典史 小幡利幸	平成 13 年度部分
未周知	周知	林山 816 ~ 9 地	15/5.7 ~ 5/16	48・道路建設・有	津教委文第 10833 号	5/2	小幡利幸	小幡利幸
社會路・美作国分寺跡	周知	國分寺 406 ~ 1 地	16/2.20 ~ 3/2	29・保存・有	津教委文第 80865 号	3/17	中山勝記	
社會路・赤子庵今路	周知	赤子庵 956 ~ 4 地	3/15 ~ 3/16	15・個人住宅・有	津教委文第 96372 号	3/25	小幡利幸	

2. 現地説明会

日上歎山古墳群

平成16年1月10日（土）約90名



現地説明会風景

D. その他の事業

1. 遺跡の保存・管理

《国指定史跡》 美和山古墳群清掃、草刈、剪定

《県指定史跡》 日上天王山古墳・日上戯山古墳群草

刈

《市指定史跡》 沼遺跡草刈、剪定、井口車塚古墳・

正仙塚古墳・中宮1号墳・飯塚古墳・

煙硝藏跡草刈

《未指定》 津山中核工業団地内古墳（一貫東1

号墳）公園草刈

2. 津山やよいライオンズクラブ奉仕作業

沼遺跡の草刈



第Ⅱ部 調査の概要

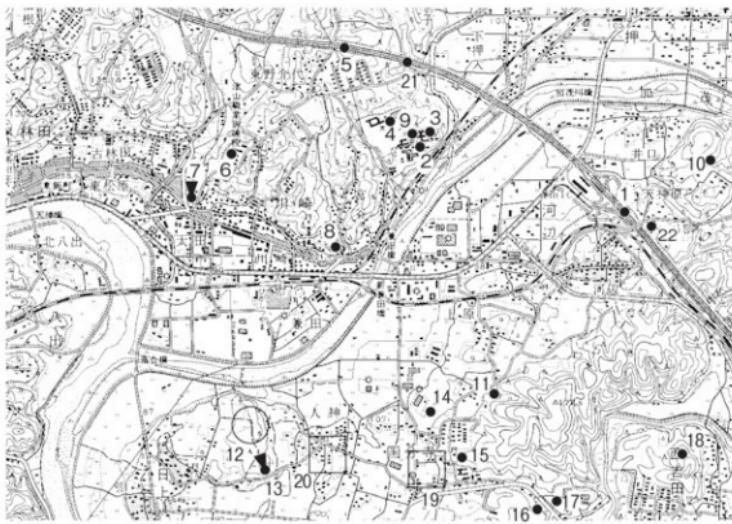
天満神社8号墳・天神原遺跡発掘調査報告

1. はじめに

今回の調査は駐車場造成に伴うもので、天満神社8号墳は、津山市河辺347-6番地他に存在する。天満神社古墳群は加茂川左岸の標高120~125m前後の丘陵上に存在し、岡山県遺跡地図によると14基の古墳からなる古墳群である(第1・2図)。道路工事などですでに8基(1~4、9~12号墳)が調査されている(註1)。古墳群からは西方が開けており加茂川の平野部を臨むことができる。なお本古墳群は南北方向の丘陵尾根上に連なる群と鞍部を挟みやや離れて本8号墳などが存在する。現在古墳群の真中で中国自動車道が通り古墳群を分断する形となり、現存するのは北側で天満神社の周辺に3基(5~7号墳)、南側に8号墳などがあるのみである。これまでに調査された古墳はいずれも径10m前後の円墳で埋葬施設は木棺と横穴式石室があるが、ほとんどが木棺を埋葬施設にもつ5世紀後半~6世紀初頭にかけての古墳である。また、古墳群の下層から東側の丘陵一帯には弥生時代後期を中心とした集落遺跡である天神原遺跡が存在する。この遺跡の東側には幅18m程の環濠が存在し、今回調査した8号墳一帯はこの環濠の外にあたるが、比較的なだらかな丘陵部分である。尚、開発予定地には8号墳のほかに13号墳が存在したが、調査の結果石の集積による高まりで、古墳でない事が判明した。

調査は平成15年7月10日から開始し8月27日に終了した。調査面積は約370m²である。

尚、調査経費は全額原因者である医療法人蘭和会の負担によるものである。



第1図 天満神社古墳群と周辺主要遺跡(国土地理院25,000分の1地形図「津山東部」)

2. 調査の記録

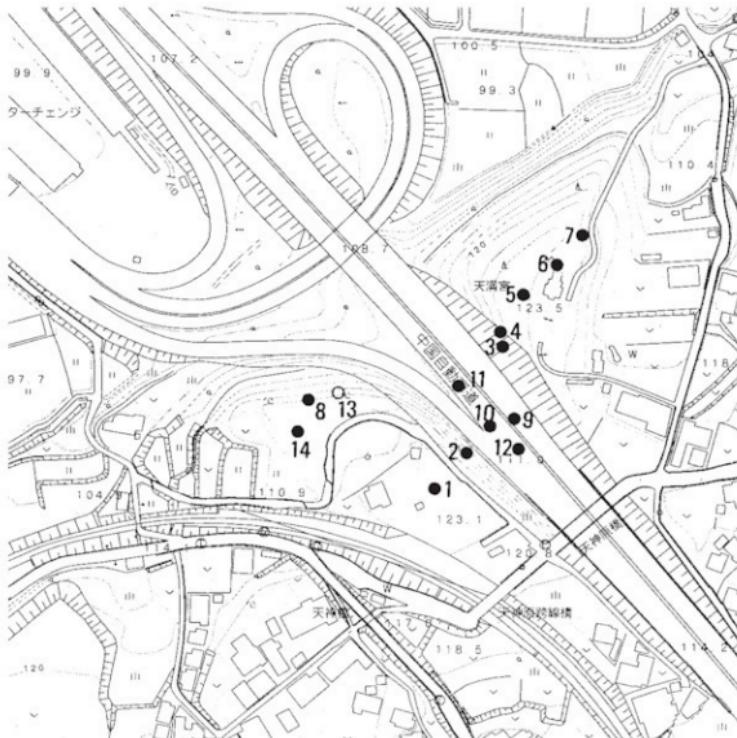
a. 天満神社古墳群

(1) 8号墳 (第3~5図)

(a) 調査前の状況

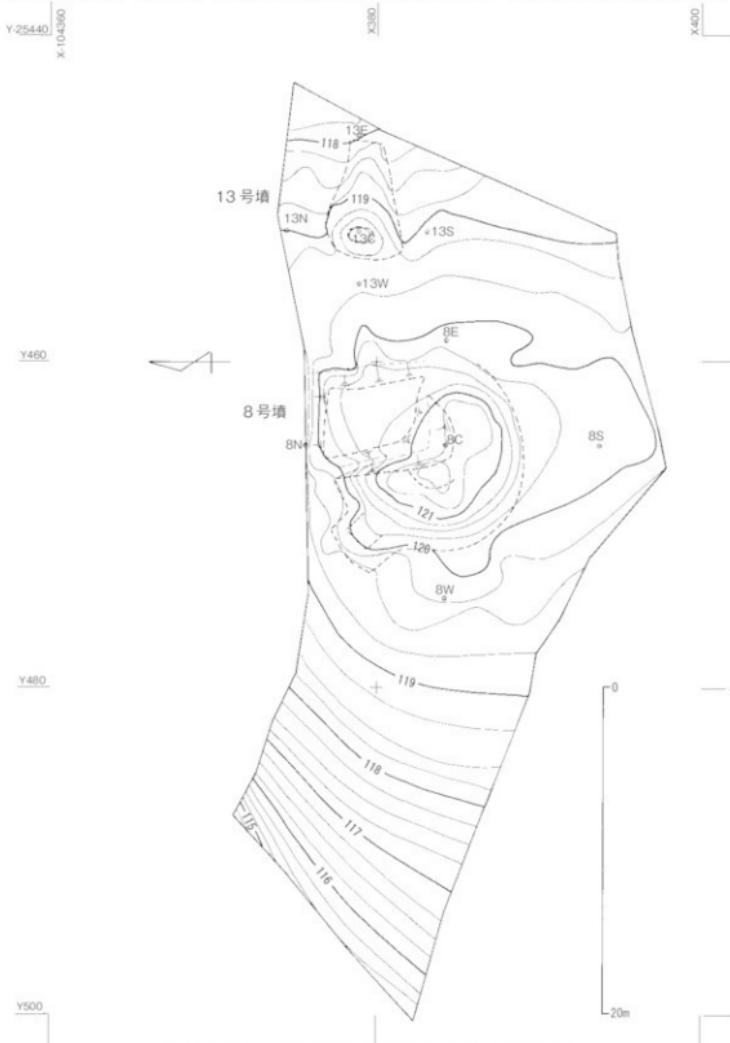
開発計画一帯は、現状が竹林で、密に竹が生えているため、古墳の現状を知る事もかなり困難な状況であった。その後竹を伐採し周辺を含めた地形測量をおこなった。古墳の北東部は一段低く平らで方形に整形され畠として使用されていたため、墳丘側にL字状の排水用の溝がめぐっている。またその溝や南東側墳頂などにはかなりの数の石が見られた。石は人頭大のものもあり、中には五輪塔の一部も見られた。これら大きめの石が見られるため本墳は以前から横穴式石室墳とされていた。地形測量の結果、現状は直径12m程の円墳で、北西側に長さ2m、幅4m程の造り出し状施設が付随するようである。それを含めると全長は14m程になる。

(b) 墳形・規模・外表施設



第2図 天満神社8号墳位置図 (S = 1:2,500)

古墳の表土の荒削りを重機でおこない、その後は人力で表土を除去した。竹の根が縦横無尽にはっているため、表土剥ぎにかなりの労力を費やした。表土を除去した結果、墳丘の北東部分は盛土のほとんどを失っていたが、その他の部分は墳丘の残りも比較的良い。調査前の段階では北西部に造り出しが1箇所存在するように考えていたが、その部分にトレーナーをいた結果、後世の遺物が出土したため、別造構である事が判明した。そのためこの造構によって墳丘北西側の一部がくびれ部状に大きく改変さ

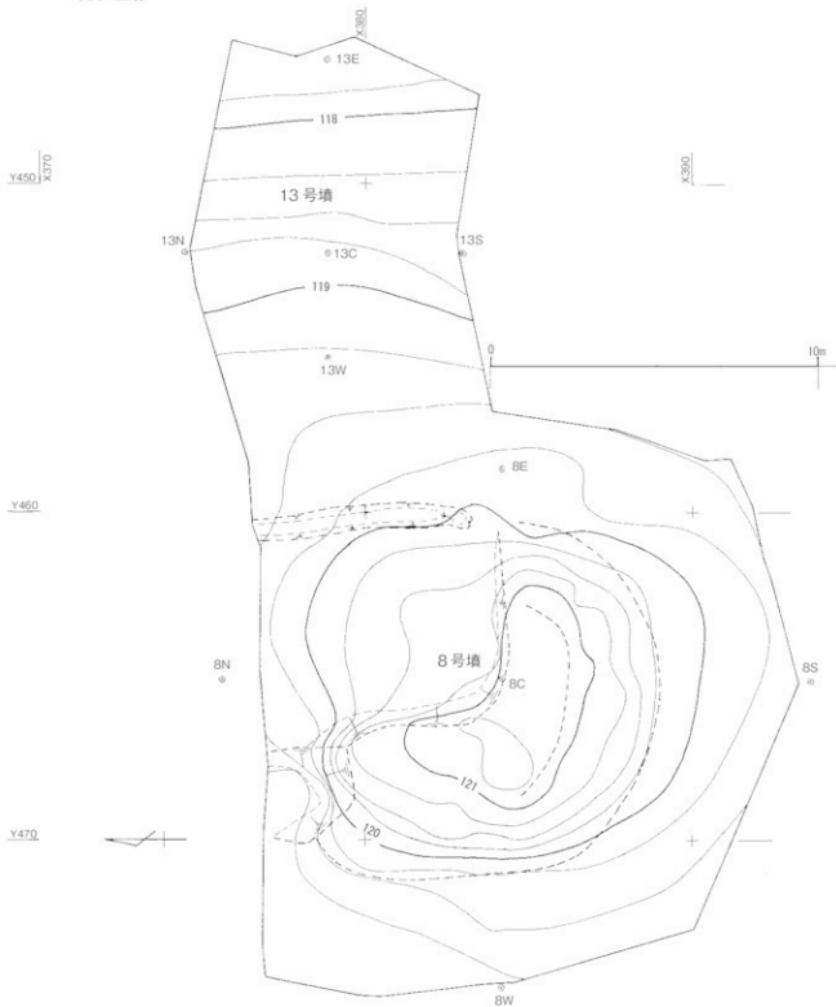


第3図 天満神社8・13号墳調査前測量図 (S = 1:300)

れている。墳丘の構築は地山整形、盛土によるもので、明瞭な周溝は見られない。墳丘斜面には表土除去時に石が見られたが、葺石と言えるものではなく後世のものがほとんどである。そのため葺石は無く、また埴輪も見られない。

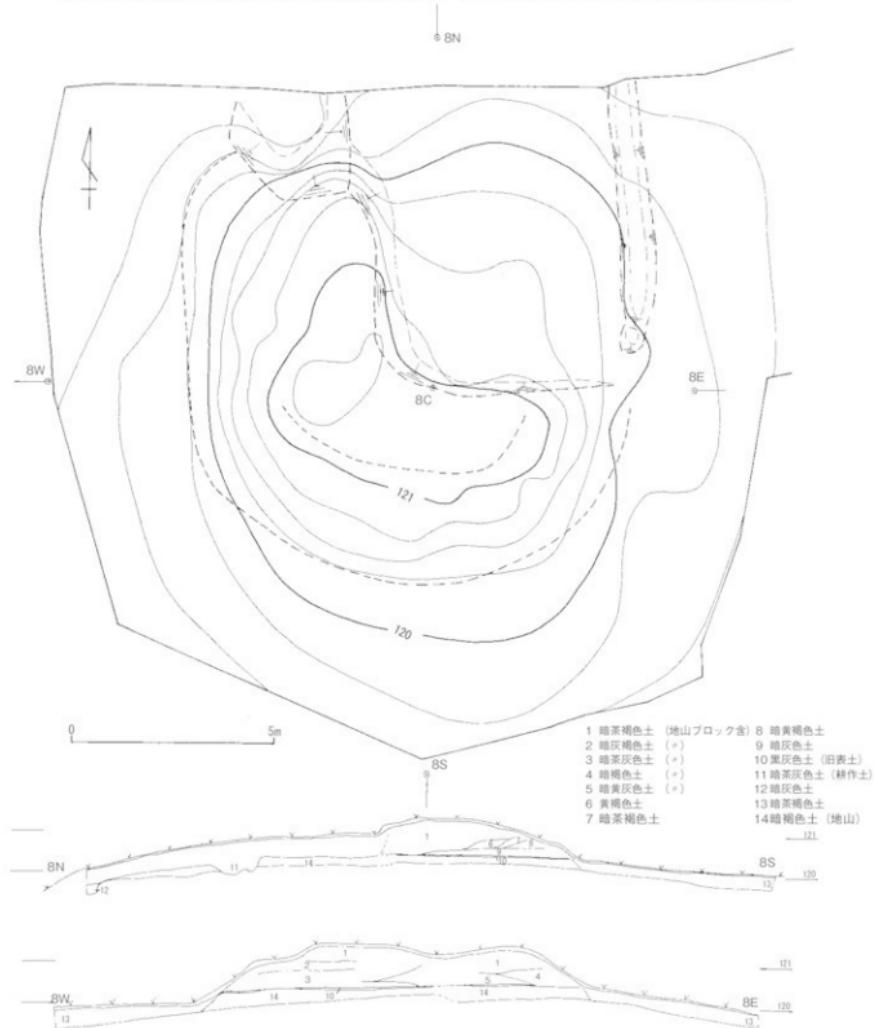
本墳は墳端ラインが西側ではやや直線的に見られるが、これはこの部分が後世に一部改変されているための所産である。全体的な形状から円墳と考えられ、径 11 ~ 12 m、現状で高さ 1.5 m を測る。

(c) 土層



第4図 天満神社8・13号墳測量図 ($S = 1:150$)

墳丘のほとんどが盛土で北壁以外の土層では旧表土層が明瞭に見られる。旧表土層は黒色土で厚さ5cm程度である。この黒色土の状況から旧表土面をあらかじめ焼いて整形しているものと考えられる。盛土の残り具合は南と西壁で最大1m程度ある。南北土層の内南壁では外側から先に盛土をおこなって、後から中心部を埋める工法が読み取れるが、北側はすでに盛土が見られないため詳細は不明である。東西土層では最初は西側から東側に向かってある程度積んで、その後は水平に積んでいるようである。全体的



第5図 天満神社8号墳墳丘測量図 (S = 1 : 100)

にブロック状のものはあまり見られない。また埋葬施設の痕跡は一切見られないため、すでに流失しているものと考えられる。

(d) 埋葬施設

墳丘の北東側がすでに畑として大きく削平されていたため、残存する中心部を平面的にまた土層などから断面的に観察したが、埋葬施設の痕跡は確認できなかった。おそらくすでに流失しているものと考えられる。また墳頂部に五輪塔の残片が見られかなり大き目の石が数多く存在し、これらが古墳に伴うもののか五輪塔に伴うものかは判断しにくいが、大部分は後者に伴うものと考えられる。また残りの良かった北西側墳端付近にも大きめの石が見られたが、これは造り出し状に整えられた遺構に伴うものである。ただ、この北西側の頂部から斜面にかけて拳大の石が表土除去時にかなり出土した事から、これらは古墳に伴う可能性も捨てきれない。その場合は木棺や堅穴式石槨の隠床ないしは、練棚などであった可能性もある。いずれにしても、埋葬施設はすでに流失しているため詳細は不明である。

(e) 副葬品及び出土遺物

埋葬施設はすでに流失していたため、副葬品は一切見られない。また表土除去時にも出土遺物は盛土に含まれる弥生土器以外にはほとんど無く、唯一北東側墳外の13号墳との間付近から須恵器片1点（第11図1）が出土した。これについても8号墳に伴うものか明瞭でないが、北東側を畑に開墾している事、13号墳が古墳でない事から本墳に伴う可能性が大きいものと考えられる。

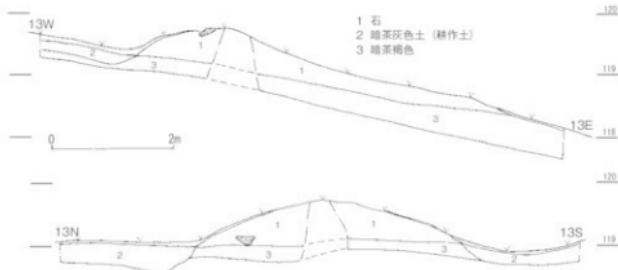
(2) 13号墳（第3・4・6図）

(a) 調査前の状況

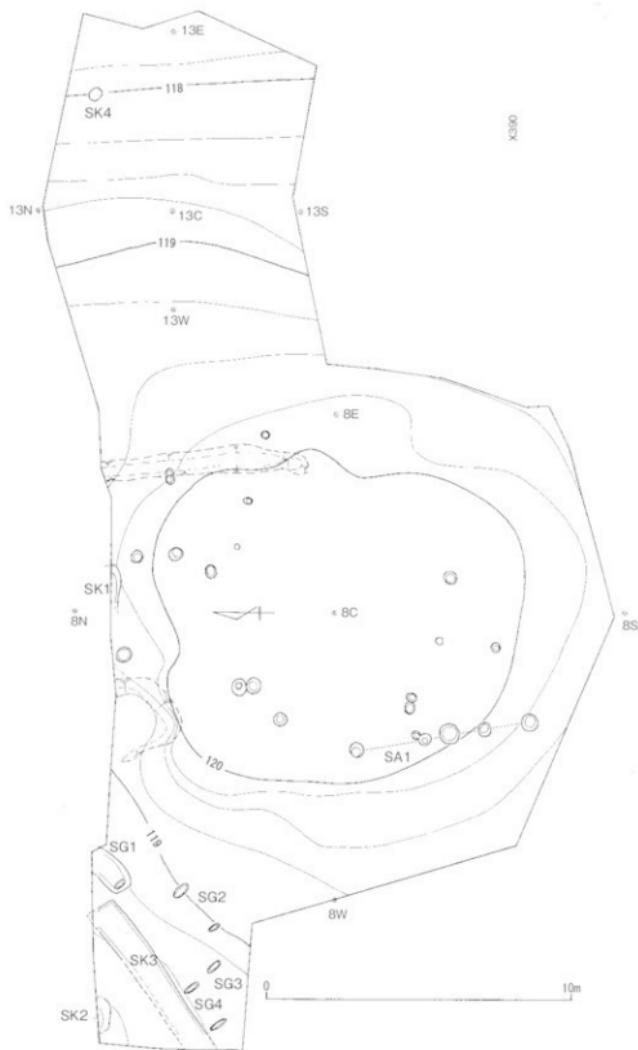
竹伐採前から径5m、高さ50cm程の高まりが見られた。竹伐採後の地形測量では、南北方向で径5m程の高まりがあるが、東西方向では長さ7m程で現状では長方形状の高まりである。また、墳丘上にはかなりの石の集積が見られる。

(b) 調査後の状況

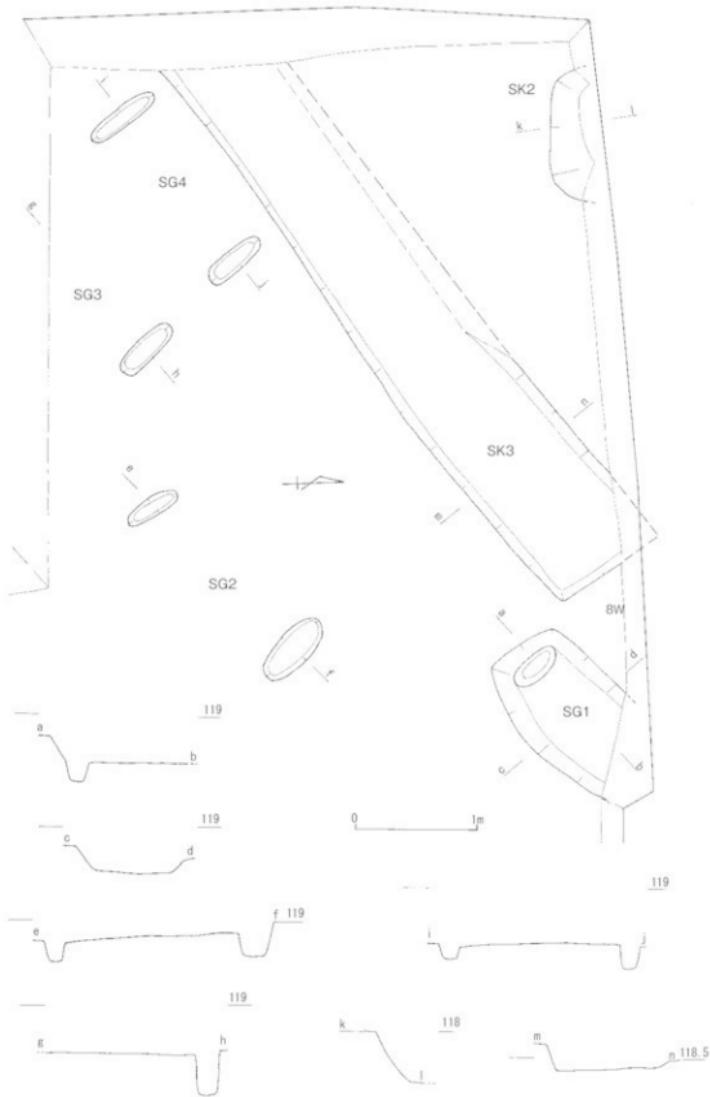
表土を除去する段階で墳頂部の高まりはすべて石で積まれており、その中にクリーム瓶や耕作道具のウシング（犁）などが混ざっていたため、これら石は現代の耕作時に廃棄されたものと判断される。また、盛土や古墳に伴う出土遺物も無い事から、13号墳は古墳ではないものと考えられ、自然地形に後から石が積まれ、周囲を畑にしたため古墳様な高まりになったものと考えられる。



第6図 天満神社13号墳土層図 (S = 1:80)



第7図 下層遺構平面図 (S = 1 : 160)



第8図 木棺墓、土壤平・断面図 ($S = 1:40$)

b. 天神原遺跡（第7～10図）

古墳調査時に墳外で柱穴や木棺墓などがある事、古墳の盛土に弥生土器片が見られる事から下層に同時代の遺構がある事が予測された。そのため、古墳の盛土を除去し、木棺墓が見られた北西側については、可能な限り西側に調査区を拡張した。その結果、遺構の密度は比較的少なく、調査区の西側を中心には木棺墓4基、柵1、土壙4などを検出した。その他8号墳に付随する形で古墓状遺構を検出した。

(1) 弥生時代

(a) 木棺墓（第8図）

木棺墓1（SG1）

一部調査区外になるが、現状で長さ1.4m、幅0.9m程の長方形の掘り方で南側に小口溝がある。棺の主軸は北東方向ではほぼ等高線に平行である。埋土は暗黄灰色土1層で、出土遺物は無い。

木棺墓2～4（SG2～SG4）

SG1とはほぼ同一の主軸でSG2～4は存在し、SG2は両側の小口溝のみ検出した。小口溝間は1.6mである。SG2の南西にSG3・4が平行に存在する。SG3は北側の小口溝のみ、SG4は両小口溝があり、小口溝間は1.5mである。いずれも出土遺物は無い。

(b) 柵（第9図）

柵1（SA1）

8号墳の南西盛土の下層で、一直線に並ぶ5個の柱穴を検出した。これに対応する柱穴が存在しないため建物ではなく、柵のようなものと推測される。尚、柱穴は北側には続いていないが、南の調査区外に続く可能性は大きい。一番北側のP1から土器片（第11図2）と炭などが出土した。その他の柱穴からは出土遺物は無い。尚、P1・3・5が他より柱穴の径が大きくほぼ深さが同一である事から、この3本が主たる柱穴である可能性が考えられる。P1と3、P3と5の柱間はそれぞれ31m、27mである。

(c) 土壙（第8・9図）

土壙1（SK1）

8号墳北側の調査区端で検出した土壙で、一部分のため詳細は不明である。現状で長さ1.4m、深さ0.24mを測る。その形状から木棺墓の可能性もあるが小口溝は見られない。埋土は暗黄灰色土1層で、出土遺物は無い。

土壙2（SK2）

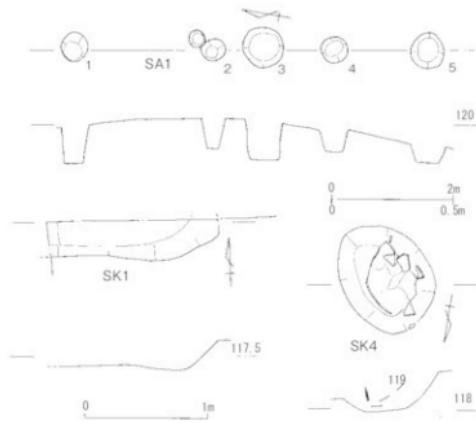
木棺墓1の西側調査区端で、一部分のため詳細は不明である。現状で長さ1.1m、深さ0.4mを測る。木棺墓などとは深さが違うため、他の遺構と考えられる。埋土は一部黒灰色土で出土遺物は見られない。

土壙3（SK3）

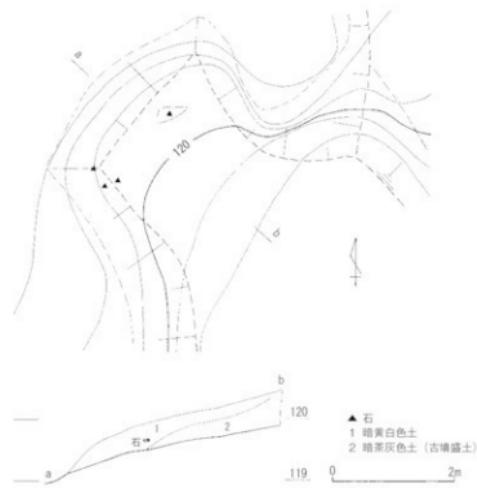
木棺墓4の西に同一主軸で存在する長方形の遺構で、現状で長さ5.5m、幅1m、深さ0.2mを測り、南西方向の調査区外にさらに続くものと考えられる。床面は平らで埋土から炭片が出土した。出土遺物は見られないが、木棺墓と主軸が同じのため、同一時期の可能性が大きい。

土壙4（SK4）

13号墳の北東区、単独で検出した楕円形（径45cm×35cm）の土壙で、内部に土器（第11図3）を埋納している。内部の土器は断面でもわかるように胴部片のみで、底部は遺構検出時に上部から出土し



第9図 横、土壤平・断面図 (SA 1…S = 1 : 80, SK 1…S = 1 : 40, SK 4…S = 1 : 20)



第10図 古墓状遺構平・断面図 (S = 1 : 80)

ている。そのため口縁部を欠いた甕などの底部を上にしてやや斜めに埋納しているようである。土器棺とも考えられるが、遺構の性格は明瞭でない。この土器以外の出土遺物は無い。

(d) その他

その他、建物等にならない柱穴が8号墳の下層に散在的に見られるが出土遺物が見られたものは無い。遺構に伴わない出土遺物の中に器台の裾部付近と考えられものがあり（第11図5）、外面には断面が三角形の3条の凸帯がめぐる。この凸帯の下側にはスタンプ文が連続して施されている。摩滅が著しく欠損部分があるためスタンプ文の全容は不明だが、現状では上部は円形でさらに下に文様は続いており、その形状から渦巻き文で逆S字を表しているものと推測される。

(2) 中世以降

(a) 古墓状遺構（第10図）

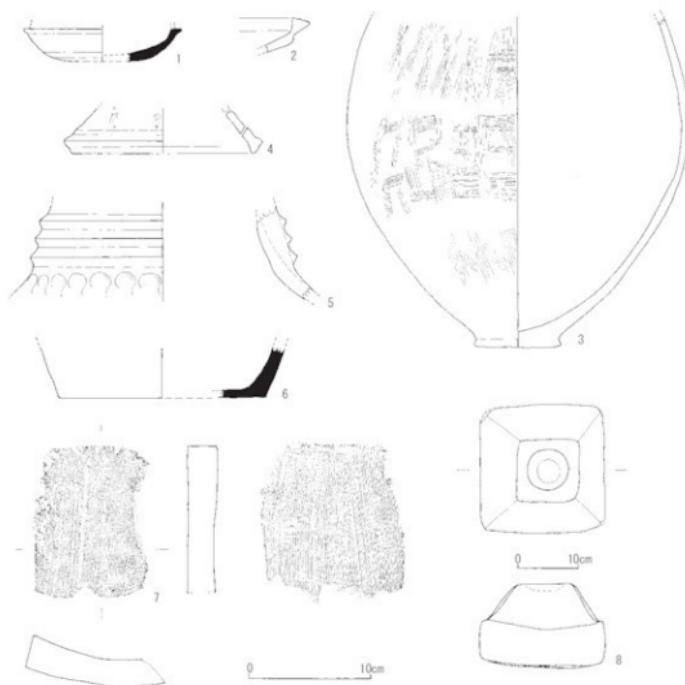
8号墳の北西側に長さ4m、幅3.5m程の方形の遺構があり、古墳に付随する形のため両くびれ部分は墳丘をかなり削りこんでおり、特に北側は地表面を大きくえぐるように削って整形している。南側もかなり地山を整形している。この頂部表面に石が数点見られたが規則的並べられているものではない。当初は古墳に付隨する造り出しと考えていたが、この部分にトレーナーをいた結果、古墳の盛土に1層付け足したもので、この土層内から瓦（第11図7）や五輪塔片1点（同8）、大きめの石数点などが出土した。そのため、この部分は後世の遺構と判明した。ただこの土層から出土した五輪塔片は埋め込まれた不自然な状態で出土しており、明瞭な埋納施設とも言い難い。ただ内部から火葬の骨片が少量出土している。これら骨片のはいった容器は見られない事から、腐りやすいものに入れられていた可能性があり、骨も一部分である事から、散骨されている可能性が考えられる。

出土した瓦は平瓦で凸面が縱方向のハケ、凹面は布目が施され、色調は青灰色である。五輪塔片は火輪部分で、上部の差し込み部は円形で、石材は花崗岩である。

その他、13号墳の下層から備前焼の底部（第11図6）が出土している。

(b) 小結

この古墓状遺構の埋納施設は明瞭でないが、人骨片が出土した事から墓であった可能性は大きい。ただ五輪塔の一部のみを埋め込むなど、後に手を加えている可能性もある。また本例のように古墳の墳端部分に付け足して造られている例はあまり知られていない。古墳の墳頂部にも石がかなり見られたものの、墳頂部では明瞭な遺構は検出できていない。この墳頂にも同様な遺構があつて一連のものであった可能性も考えられる。また、この古墓状遺構の時期であるが、瓦の凸面にハケを使用している類例が、周辺の国分寺河原田遺跡（註3）や河辺上原遺跡（註4）から出土しており、瓦の凸面に格子目のタタキがあるものも見られ、この瓦と勝間田焼が共存する事が知られている事から、これら瓦は勝間田焼の窯で焼かれたものと推測される。そのためこの勝間田焼が使用された時期（11世紀中頃から13世紀、註5）以降が本遺構の時期と推測されるが、共存する五輪塔片から言えばもう少し新しい時期となるようと思われる。いずれにしても中世以降の遺構である。



第11図 出土遺物 (1~7…S = 1:4、8…S = 1:8)

3.まとめ

a. 天満神社8号墳と天満神社古墳群

天満神社8号墳は、径11～12m、高さ1.5m以上の円墳で、埋葬施設はすでに流失しているため、詳細は不明である。そのため副葬品も無く、須恵器片が1点墳外から出土している。8号墳の埋葬施設は從来言われていた横穴式石室ではなく、石材も見られない事から木棺直葬であった可能性が大きい。須恵器が周辺から出土している事から、築造時期はこの須恵器の時期に近いものと推測される。ただこの須恵器は小片のため、詳細は明瞭でないが、横穴式石室墳でない事から、概ね6世紀初頭頃と推測される。

天満神社古墳群は14基の古墳からなるとされていたが、13号墳が古墳でないことがわかり、古墳の数は13基となる（第1表）。これまでに調査された古墳は8基あり、いずれも径10m、高さ1～2m程の円墳である。埋葬施設は木棺と横穴式石室があるが後者は1基のみである。また、周溝のある2～4号墳は墳丘が低く、埋葬施設は比較的深い位置に墓壙を掘り込んでいる事から、本8号墳とは墳丘構造が異なるようである。そのため時期が異なる可能性が考えられる。周溝の無い本墳は1号墳とよく似ており、1号墳も比較的浅い所に埋葬施設を構築していたためすでに流失している。そのため1号墳に時期が近い可能性が大きい。

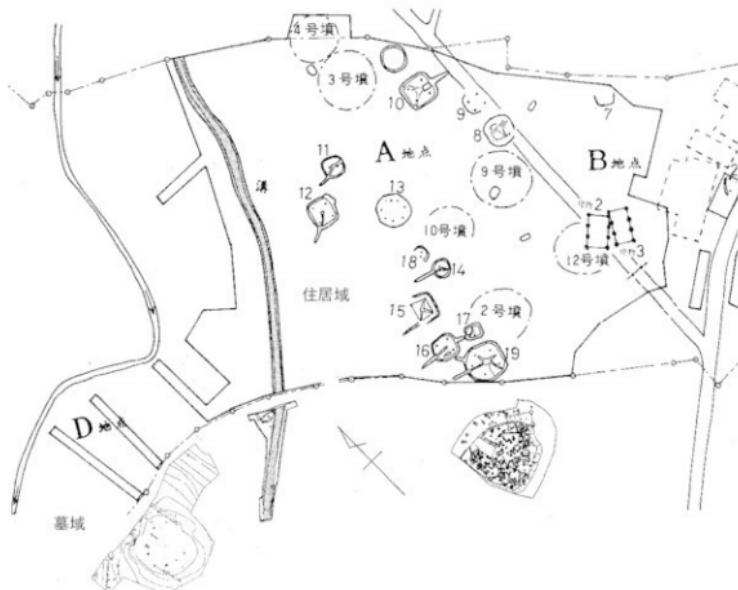
次に古墳群の時期であるが、須恵器以外の出土遺物はほとんど無い。須恵器の出土した3号墳は陶邑編年（註6）のTK4.7型式併行、10号墳出土の翫や土塙出土の翫、高杯は3号墳より古いものもある。1号墳は小片しかないが、TK2.3～TK4.7型式併行と思われる。また、4号墳からは方格規矩鏡が出土するが須恵器の出土が無く時期の詳細は明瞭でない。本8号墳は前述のように6世紀初頭頃と推測される。

番号	墳形	直径(m)	高さ(m)	埋葬施設	外表施設	出土遺物	備考
1	円墳	12	2	不明	なし	刀・須恵器	消滅
2	円墳	12	1.5	木棺直葬	周溝		消滅
3	円墳	10	0.7	木棺直葬	周溝	須恵器	消滅
4	円墳	8	0.8	木棺直葬	周溝	鏡（方格規矩鏡）	消滅
5	円墳	不明	不明	不明			墳丘4分の3消滅
6	前方後円墳	30	4	不明	葺石		円墳の可能性有り
7	円墳	20	1.5	不明	不明		
8	円墳	12	1.5	不明	なし	なし（墳外から須恵器）	消滅
9	円墳	10	不明	不明	周溝	なし	消滅
10	円墳	10	不明	不明	周溝	須恵器	消滅
11	円墳	10	不明	横穴式石室	不明	須恵器	消滅
12	円墳	不明	不明	不明	周溝	なし	消滅
13	古墳でない						
14	円墳	10	1	不明	不明		

第1表 天満神社古墳群一覧表

以上から、本古墳群はすべてを調査していないため推測の域をでないが、横穴式石室墳である11号墳を除けば5世紀の後半から6世紀初頭にかけての築造と考えられる。なお、本古墳群の中では、6号墳が前方後円墳とも言われており、高さも4mと他より大きい。古墳群の中では盟主的な古墳である。周辺に見られる、同時期の古墳群は長戸山北古墳群（註7）や日上戸山古墳群（註8）などがあり、この時期の古墳は比較的多くの須恵器や鉄器類などを副葬・供獻する。その点で言えば本古墳群の内、埋

葬施設が判明している2~4号墳は副葬品が非常に少ない特徴がある。また出土した須恵器の中には古い時期のものも見られる事から、長歟山北古墳群より古い時期から古墳が造られている可能性と被葬者自身の性格などが異なる可能性が考えられる。特に2~4号墳のような墳丘が低く、副葬品の少ない特徴は、5世紀の前半頃に見られる盛土のほとんど無い副葬品が少ない古墳（例えば押入兼田古墳群、註9）からの系譜を引く、在地的な性格がつよい可能性が指摘できる。そのため中には小規模古墳でありながら鏡を副葬するものも見られるのである。逆に長歟山北古墳群など高さのある墳丘で副葬品の多く見られる古墳は、これらとは異なり、新たにその時期に造られ始めた古墳群である。おそらくその被葬者の性格自身も天満神社古墳群とは若干異なるものと推測される。天満神社古墳群は古墳群中に前方後円墳ないしは径20m以上の古墳が含まれる事、鏡が出土している事などから在地の小首長層の系譜としてとらえられ、8号墳は1号墳同様古墳群中最終段階に造られた古墳と考えられる。なお長歟山北古墳群は鉄器類や鉄滓、馬具など副葬品が豊富に見られる事から、外来文化を受け入れて、発展させてきた新興勢力層が被葬者と推測される。



第12図 天神原遺跡模式図（註2豊島文献より引用・加筆）

b. 弥生時代の遺構について

今回検出した遺構は木棺墓と土壙、柵である。遺構に伴う遺物は柵に伴うもののみで、また出土点数も少ない。3条の凸帯その下に同心円のスタンプ文がめぐらものは、類例は少ないが、下道山遺跡（註10）から2条凸帯でS字のスタンプ文がめぐらる塗が出土しており、時期は後期の後半頃である。また土壙4から出土した口縁部が無く、胴部の最大径が中程にある土器は、タタキが見られる事から後期後半の所産である。タタキが見られる土器は以前の調査でも出土している。柵以外の遺構、特に木棺墓群について時期は明瞭でないが、後期後半頃の土器で墳墓に伴うような大形の土器が周辺で出土することから、木棺墓群も後期後半の所産と推測される。本遺跡は天神原遺跡の環濠の外ではあるが同遺跡の続きと推測される。この天神原遺跡は前期もあるが、ほとんど後期後半が主体である。環濠がめぐり住居跡、建物跡、貯蔵穴などが検出されているが、墓域については土壙墓数基が報告されているものの、明瞭に小口溝の見られるものはなかった。今回の調査地点は環濠の外側で、この木棺墓が環濠をもつ集落と同一時期と考えると、環濠の外の今回検出した木棺墓群のうち木棺墓1までの範囲は、丘陵の高所ではあるがほとんど遺構の無い空白の地域である。性格としては広場的なものであろう。そしてその外側の斜面一帯が墓域であったものと考えられる。墓域も一部しか検出していないが、さらに調査区外に広がっていたものと推測される。

美作地方の住居などの集落遺跡と墓域との関係は、例えば集団墓と集落遺跡である有本遺跡（註11）のように同一丘陵には無く離れた続きの丘陵に墓域がある場合があり、あっても同一丘陵端に見られる一貫東遺跡（註12）などは稀有な例である。またこれら集落遺跡は環濠などで区画を施しておらず、環濠がめぐる本遺跡とは性格がやや異なるものと推測される。また平野部で環濠の外に墓域がある類例として京免遺跡（註13）が知られている。環濠をもつ点で立地面は異なるが、本遺跡と同一の性格である可能性が考えられ、これらは拠点的な集落である。今回の調査で、天神原遺跡の環濠によって区画された外に墓域群が存在する事がわかった意義は大きいものと考えられる。 （小郷利幸）

註

- 1 河本清・橋本惣司他「天神原遺跡」「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告7」岡山県教育委員会 1975
行田裕美「天神原遺跡・天満神社1号墳の調査」「年報津山弥生の里第5号」津山弥生の里文化財センター 1998
- 2 許1文献
豊島雪絵「天神原遺跡発掘調査報告」「年報津山弥生の里第8号」津山弥生の里文化財センター 2001
- 3 行田裕美・平岡正宏「津市国分寺河原田周辺採集の遺物」「古代吉備第16集」古代吉備研究会 1994
- 4 小郷利幸「河辺上原遺跡」「津市埋蔵文化財発掘調査報告第54集」河辺上原遺跡発掘調査委員会・津市教育委員会 1994
- 5 國正雄「勝間田古窯跡群の動態」「環濠戸内海の考古学—平井勝氏追悼論文集—」古代吉備研究会 2002
- 6 田辺昭三「陶邑古窯址群I」「平安学園考古学クラブ」1966
田辺昭三「須歎器大成」角川書店 1981
- 7 行田裕美他「長歎山北古墳群」「津市埋蔵文化財発掘調査報告第45集」津市教育委員会 1992
小郷利幸他「長歎山北11号墳」「津市埋蔵文化財発掘調査報告第57集」津市教育委員会 1996
- 8 安川豈史「日上歎山古墳群」「津市埋蔵文化財発掘調査報告第63集」津市教育委員会 1998
- 9 小郷利幸他「押入兼田遺跡」「津市埋蔵文化財発掘調査報告第69集」津市教育委員会 2000
- 10 野上恭子「津山のスタンプ文」「年報津山弥生の里第1号」津山弥生の里文化財センター 1999
- 11 小郷利幸「有本遺跡他」「津市埋蔵文化財発掘調査報告第62集」津市土地開発公社・津市教育委員会 1998
- 12 湧智夫「一貫東遺跡」「津市埋蔵文化財発掘調査報告第43集」津市土地開発公社・津市教育委員会 1992
- 13 中山俊紀「京免・竹ノ下遺跡」「津市埋蔵文化財発掘調査報告第11集」津市教育委員会 1982



写真1 調査区遠景（南東から）



写真2 調査前の状況
(竹伐採前)



写真3 調査前の状況
(竹伐採後)

写真4 8号墳調査前
(南から)



写真5 作業風景



写真6 8号墳全景
(西から)



写真7 8号墳全景
(東から)



写真8 8号墳土層
(南西から)



写真9 8号墳土層
(北東から)



写真 10 13号墳調査前
(東から)



写真 11 13号墳全景
(南から)



写真 12 13号墳土層
(南西から)

